

■ 令和6年第2回定例会一般質問 (令和6年6月18日)



【1】幼稚園の充実

①少子化や共働き家庭の増加など社会情勢が変化中、それぞれの家庭環境に応じた保育や幼児教育が提供できるよう、幼稚園への支援を充実するべき。

→[区の回答] \ 対応 /

就労の有無を問わず幼稚園に通うことができる仕組みづくりを進めている。私立幼稚園協会や父母の会のご意見を受けて、お弁当を提供する私立幼稚園に対する支援や、預かり保育に対する助成を充実している。

【実現】

【現在】令和7年度予算で助成が継続されます。また、私立幼稚園入園料の補助が10万円に引き上げられます。

②幼稚園教諭の処遇改善を進めてほしい。

→[区の回答] \ 対応 /

令和3年度から各園の教員1人当たり月額3,600円改善したほか、子ども・子育て支援新制度の認定を受けた園は保育士と同様の処遇改善加算の給付を受けられるため、希望する園に対して移行支援している。国・都の補助も活用し、幼稚園教諭が目黒の子どもたちのためにやりがいを持って取り組めるよう適切な支援に努める。

③今後、既に廃園することが決定している幼稚園に対しては、区として最後までしっかりとサポートし、子どもたちと保護者が安心して通い続けられるようにしてほしい。

→[区の回答] \ 対応 /

子どもたちが全員無事に卒園して、滞りなく廃園できるよう、保護者、幼稚園、私立幼稚園協会等に対してしっかりとサポートに努める。

【2】プッシュ型子育て支援

○妊娠から出産、子育て期における社会的孤立は、産後うつや児童虐待のリスク要因にもなる。妊娠期から時期に合

わせて、必要な情報が的確な時期に届く、プッシュ型子育て支援を進めてほしい。アプリ「母子モ」も有効に活用し、情報配信の充実を。

→[区の回答] \ 対応 /

プッシュ通知は必要な情報を必要な方へ先回りして通知するもので、情報を自ら調べて把握する負担を軽減し、子育て支援施策の利用率向上のためにも有効。「母子モ」で、お子さんの年齢を登録すると、予防接種や育児教室のお知らせなどをプッシュ通知している。ただし、アプリの認知度が3.7%と低いため、認知度の向上が課題。国は、全国の自治体の子育てに関する支援体制をオープンデータとしてまとめ、子育て家庭に対して必要な情報を最適に届ける仕組み「子育て支援制度レジストリ」を構築している。アプリの活用を含め、子育て家庭の利便性が向上するよう、検討する。

→「母子モ」は、子育てに役立つ情報や、地域ニュースが、プッシュ通知で届きます。また、区民が発信する記事も掲載。ぜひご利用ください！

QRコード



【3】若者の区政参画

○区長選挙の公約に「若者未来応援プロジェクト」を掲げていたが、若者の意見やニーズをどのように把握して、区政に反映する仕組みをつくるのか。

→[区の回答] \ 対応 /

次代を担う若者たちの社会への参画、政治や行政への関心を高めていくことは、今後の目黒区政のみならず、日本の将来を左右する重要な課題。若者たちの地域課題に対する関心を高め、区政運営に積極的に参加できるよう、仕組みづくりと意識の醸成に努める。今年度は、「めぐろYouth (ユース) ミーティング」として、16歳から25歳までの区内在住・在学・在勤の方を対象に、オンライン会議を行い、いただいたご意見を新たな目黒区子ども総合計画への反映や、若者支援施策の参考にする。



マイクロン(ネーミング)



目黒区民まつり



目黒消防署を視察



八雲水川神社例大祭

区民の声を届けました！

「東根住区センターの安全防犯対策を強化してほしい」



→建物の正面玄関外に照明を設置し、夜間の階段の暗さが解消されました。また、児童館を利用する小中学生や乳幼児の親子が増えたので、子どもたちの安全対策を講じるため、令和7年度予算で防犯カメラの設置費用が助成されます。東根住区センターの防犯対策が強化されます。

「産後ケア入院施設が近くにほしい」



→助産師等による母子のケアや授乳指導などを受けられる産後ケア事業(宿泊型)が好評につき、厚生中央病院、育良クリニック、愛育産後ケア子育てステーションに加え、

日本赤十字社医療センターが助成対象に加わり4施設に。また、日帰りでの産後ケア入院も利用可能に(1回2,500円昼食代込み)。

「ランランひろばは、学校の都合で一時帰宅しなくてはならない日があり困る」



→他学年の教育活動や雨天などで校庭、体育館が利用できない時間帯は、校内の空き教室などを利用することで、一時帰宅せずに、学校で過ごせるようになりました。空き教室がない日は、ランランひろばの開始時刻まで、児童館で過ごします。その場合は、ランランひろばの職員が同行し、子どもたちの安全を見守ります。保護者の就労や私用などの要件はなく、低学年の下校時刻から、そのまま放課後を過ごせる居場所が確保されます。



TOPICS 目黒区で「手話言語条例」が議決

23区で最後となりましたが、「手話言語条例」が制定されました。手話への理解を普及することで、聴覚の有無に関わらず、ろう者の方々も安心して暮らせる目黒区をつくっていきたいと思います。

● いつでもお声をお聞かせください！ ●

事務所(区役所控室) 目黒区上目黒2-19-15目黒区役所5階 自民党目黒区議団・区民の会

TEL 050-7109-3913 FAX 03-4363-5708

✉ naoko.takashima.meguro@gmail.com

党員として活動を応援して頂ける方は、ご連絡ください。

公式サイト、SNSで情報発信中！



区政活動レポート

Vol.3 2025.4

／ なおこがなおす ／  
こどもの未来のために。みんなの健康のために。 討議資料

目黒区議会議員

高島なおこ

プロフィール

【略歴】神戸大学経済学部卒(優秀卒業論文賞受賞)、東京医科歯科大学大学院修士課程修了、東京大学公共政策大学院医療政策実践コミュニティ(H-PAC)1期、5期。医療現場で看護師の経験を経て、日本看護協会にて医療制度や診療報酬など医療・看護政策の推進に従事したのち、令和5年目黒区議会議員に初当選。小学生と幼稚園児の2児を子育て中。

【資格等】看護師/保健師/防災士/幼児食アドバイザー/妊産婦食アドバイザー/ヘルスフードカウンセラー1級/ABCクッキングマイスター  
【主な役職】令和5年度文教・子ども委員会副委員長 令和6年度企画総務委員会委員、広報・図書室運営委員会副委員長、自由民主党目黒区議団・区民の会幹事団会計



ご挨拶



目黒区議会議員

高島尚子

平素よりご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。目黒区議会議員として2年目、区民の皆様からいただくご意見や課題を解決するため、区政に声を届けてまいりました。

今年度は、企画総務委員会に所属し、行財政運営や防災、補正予算審議などに取り組みました。また広報・図書室運営委員会の副委員長として、区議会をより身近に知っていただくための議会広報の推進にも取り組みました。さらに、自由民主党目黒区議団・区民の会の幹事団として、会派運営に携わりました。引き続き、次世代を担う子どもたちの育ちを支え、誰もがより健康で生き生きと暮らせる目黒区にするため、着実に政策を進めてまいります。責任世代として、また命を守る看護師の立場からも、皆様の生活がよくなるよう精一杯努めます。

ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 令和7年第1回定例会一般質問 (令和7年2月19日)

【1】目黒区の地域包括ケアシステム

①2025年現在、地域包括ケアシステム構築状況について伺う。在宅医療・訪問看護の充実、多機関、多職種連携の強化を。

→[区の回答] \ 対応 /

地域包括支援センターの地域拠点と福祉総合課による後方支援により、在宅療養を支える地域づくりを進めてきた。在宅医療と多職種連携にしっかりと取り組んでいく。



中面へ続く<

## → 令和7年第1回定例会一般質問(令和7年2月19日)の続き

②単身高齢者の住まい確保への支援を。

### →【区への回答】\対応/

福祉相談窓口に住まいの相談員を配置し、福祉型の居住支援を実施している。物件の内覧、契約同行のほか、入居後の見守り、福祉・介護につなげるなど、切れ目ない支援に取り組む。

### \実現/

## 【2】学習用情報端末を用いた家庭学習への支援

①iPadの長時間利用や学習以外の利用、ランドセルの重さや体への負担、アナログ学習の方がすぐれた点への配慮、視力低下への影響など、諸課題への対策を。

### →【教育委員会の回答】

- 各家庭で使用時間帯等の設定を可能とする「ペアレンタルコントロール」機能を導入する。
- 通学時の学用品を精選し、身体的負担を軽減する。
- これまでの教育とICTのベストミックスによる学習指導の推進を行う。

## ■令和7年予算特別委員会(令和7年3月7日~17日)

### 【1】4月から開設する【こども家庭センター】の運営体制と児童虐待防止

#### ①こども家庭センターの「統括支援員」

●旧鷹番保育園を改修し、こども家庭センターが開設する。職員体制は、センター長の下に、実務的に中心的な役割を担う、「統括支援員」が1名配置されるが、母子保健と児童福祉をつなぐパイプ役となることから、双方の専門領域に精通していることが望まれる。どのような人材を配置する方針か。また、国のガイドラインでは自治体の規模に応じてセンター長と統括支援員は兼務可であるが、本区はどのような管理体制とするか。

●端末の使用ルール周知、家庭内ルールづくりの推奨、屋外活動の視力低下への有効性についても発信する。

【メモ】1日2時間以上の太陽光のもとでの屋外活動が、子どもの視力低下に有効です。近視を予防する意味でも、外遊びの推奨を訴えました。

②保護者が情報端末の使い方をわかるように、操作手順の情報提供をしてほしい。

### →【教育委員会の回答】

●「デジタルリーフレット」を配信し、デジタル教材の操作方法や、トラブルへの対処方法について掲載する。

### 【3】小学校の不登校支援 \実現/

○校内別室の居場所づくりと支援員の配置を導入するべき。

### →【教育委員会の回答】

●令和7年度より、複数の小学校を教育開発指定校として試行導入する。

## ！令和7年予算特別委員会(令和7年3月7日~17日)の続き

本事案は、品川児童相談所や本区の子ども家庭支援センターが関与したのに防げなかったという反省のもと、当時の目黒区議会でも児童虐待防止について議論がなされ、「子どもは、一人ひとりがかかけがえない存在である。」との思いをひとつに、「児童虐待のない目黒を実現するための決議」を全員一致で議決した。このような悲しく痛ましい事件を、二度と目黒区で起こしてはならない。子どもたちの命を最優先に守らなければならない。こども家庭センターと児童相談所は、そのような区の固い決意と、区民の悲願のもとに、つくられる。児童相談所は、子どもの命を守るために、法的権限を持った最後の砦であり、児童虐待防止は、そこに至るまでに子育て世帯の孤立を救うこと、すなわち未然の発生予防がまず原則。その意味でも、前段階の役割を果たす、こども家庭センターの役割は非常に重要である。

こども家庭センターでは、虐待リスクといわれる、貧困や若年妊娠、DVや精神疾患などを有する「特定妊婦」、家庭で不適切な養育環境に置かれている「要支援児童」、保護者による監護が不適切と判断される「要保護児童」に対し、「サポートプラン」を作成し、子ども家庭支援員と保健師等が連携・協働して支援を行う。「サポートプラン」は、支援を受ける対象者と、職員が、課題を共有認識して、同じ方向を向いて一緒に作っていくが、支援に応じない、望まない妊娠により妊娠届を出していない、妊婦健診も受けていない、こども家庭センターとつながりがないなど、円滑な支援が困難な場合も想定される。誰一人支援の輪からとりのこさないために、センター内や東京都児童相談所、関係機関による地域全体のネットワーク等、どのような対応策を講じる考えか。

### →【区への回答】\対応/

二度と虐待死を起こさないという強い覚悟をもって、児童虐待防止に取り組む。サポートプランの作成に同意を得られないケースもあるが、その場合でも支援計画を作成し、関係機関が連携して支援を行う。また、要保護児童対策協議会の機能を引き続き活用し、児童相談所をはじめ福祉や教育、保育等の関係機関、民生児童委員など地域と連携し、家庭を見守り、誰もとりこぼさないよう支援に努める。

#### ④園庭を活用した外遊びの環境づくり

●保育園の園庭があり、子育てふれあいひろばの保育室から園庭に出られる建物構造であり、手足の土を洗い流せる温水シャワーも完備されている。一般の公園では小学生が遊んで

いたり、0~2歳頃の乳幼児にとっては危ない場面もあるため、守られた環境で安心して遊べる場所は、希少価値がある。

乳幼児が外で土に触れ、遊びの機会を持てるよう、庭を最大限に生かしていただきたい。

### →【区への回答】\対応/

委託する事業者のアイデアを活かし、めぐろ子どもサポートグループなど地域の団体等と連携して、親子で外遊びできる子育てふれあいひろばにする。

#### ④食事を楽しめる場づくり

●以前本区では「子育てカフェ事業」により、乳幼児親子が集えるカフェがあったが、現在は事業が廃止されている。利用した経験があるが、乳幼児向けの食事の提供があり、小さい子を育てる親同士で息抜きできる場として大変よかった。このうち、いいほいくえん自由が丘は、現在こども食堂を実施。ほかにも現在、こども食堂は区内に12か所ある。令和7年度からは、シルバー人材センターが運営していた目黒本町の「奈古味」が、子育てふれあいひろばと子供の居場所づくりの一体的事業として、展開される。乳幼児親子が外で食事を楽しむには、ベビーカーで入れて、授乳やおむつ替えの環境があり、子どもの声を気にすることなく、周りに気兼ねなく飲食できる環境が不可欠。子育てふれあいひろばは、持ち込みによる飲食可能だが、今後は、子育てカフェや、こども食堂、宅食事業のような、乳幼児親子向けの飲食事業の実施をぜひご検討いただきたい。

### →【区への回答】\対応/

子ども食堂を実施する地域団体とともに、食事を提供する取り組みを行っていく。令和13年度を目途に子ども総合相談センター開設予定であるが、そちらでもカフェなどの飲食スペースを検討する。

## 【2】学童保育クラブの入所状況と待機児童対策

#### ①学童保育の入所状況

●保育園の待機児童数がピークで全国ワースト3であった平成29年4月に、0歳児だった子どもたちが、今年4月に新3年生になる。学童保育の入所状況の動向を、学年別に確認する。新1年生の申請児は100%入所できているか。

### →【区への回答】

待機児童数は昨年を上回る状況であり、新3年生が最も待機数が多い。続いて新4年生、新2年生の順。新1年生は、1次申請は概ね入所できており、2次申請で若干名の待機児童がいる。

#### ②待機児童対策

●本区では、学童保育に変わる放課後の居場所づくりのため、放課後子ども総合プランにより、ランランひろば、児童館のランドセル来館を実施している。学童保育に落ちた保護者からのお声もあり、もう一押し、取り組みを。児童への見守り体制の充実や、夏休みなど長期休暇中は、学童保育の宅配による昼食提供を、ランランひろば、児童館でも導入してほしい。また、毎日のおやつ提供を検討してほしい。

### →【区への回答】\対応/

全児童が過ごせる放課後の居場所づくりを目指し、令和8年度にすべての学校でランランひろばの整備が完了する。ランランひろば、ランドセル来館においても、子どもの見守り、昼食やおやつを提供を含め、検討していく。

#### ③学童保育クラブの夏季短期利用

●夏休みなど長期休暇中における学童保育の夏季短期利用について、待機児童は、優先利用として登録されるのか。また、利用対象になった場合は、区から連絡があるのか。

### →【区への回答】\対応/

夏季は定員を一定数拡大しており、待機のご家庭には区から連絡し、利用意向の確認を行っている。入所申請時の就労状況等に変更なければ、手続きは不要。

## 【3】眼科健診におけるスポットビジョンスクリーナー(SVS)の実施状況

#### ①3歳児健診の眼科健診

●乳幼児は視覚機能が発達段階にあり、3歳児健診は「弱視」を発見して、適切な治療につなげる重要な健診とされる。本区では、令和5年より眼科で屈折異常を簡便に検査測定できるスポットビジョンスクリーナーを用いた眼科健診を導入している。3歳児健診における本検査によるスクリーニングの実施状況、有用性について伺う。

### →【区への回答】

スクリーニングの精度が改善しており、早期発見と早期治療に寄与している。

#### ②未実施者に対する受診機会の確保

4歳以降に区内に転入してきたなどの理由により、スポットビジョンスクリーナーによる眼科健診を受けていない就学前児童に対し、弱視の早期発見と早期治療のため、受診の機会を設けるべきではないか。

### →【区への回答】

医療機関や医師会の協力・連携が必要となるので、他区の先行事例を参考に調査研究する。

【4】「二十歳のつどい」に障害や発達支援を要する二十歳の方が、養育や特別支援学校等の旧友とともに落ち着いた環境で式典に参加できるように配慮を。



### →【区への回答】\対応/

障害のある方が落ち着いた環境で式典に参加し、旧友との親睦を深められる機会になるよう、パーシモンホールのバルコニー席に利用可能な座席を設けるなど検討する。

## 【5】特定健診・保健指導

#### 碑文谷保健センターの移転に伴う面接会場の確保

本区は、特定健康診査の受診率と特定保健指導の実施率が低いという課題がある。東京都や23区と比べて低い水準であり、本区の計画で掲げる保健指導の目標値60%を達成していない。現在、特定保健指導の実施場所は、本庁舎と碑文谷保健センターの2か所あるが、碑文谷保健センターが児童相談所の設置に向けた準備のため、本年3月末をもって終了する。保健指導のアクセスを確保するため、令和7年度から代替となる別の面接会場を確保したのか。

### →【区への回答】\実現/

めぐろパーシモンホール会議室を面接会場として利用する。来年度も引き続き、総合庁舎がある目黒地区と、めぐろパーシモンホールがある碑文谷地区の2か所で実施する。



東が丘障害福祉施設のおこしめし



目黒区水防フェスタ



社会を明るくする運動



日本看護連盟通常総会  
石田まさひろ参議院議員、  
看護職方議員と